



辻川だより

第14号 [2010 夏号] 平成22年7月3日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujukawa/>



兵庫県にも、福崎町においても防災計画は作成されてはいますが、大事なことは地域にあった計画が地域の人によって作成されることです。日ごろから、広く区民の方々が防災についての意識を持つことの大切さ、さらに地域住民のつながりの大切さを感じます。
安全で安心できる地域づくりのために、今後皆様と一緒に地域の防災計画に取り組みたいと思っています。



4/29 第24回運動会



地域における自主防災計画

区長 釜坂道弘

阪神・淡路大震災から15年が経ちました。また、昨年の8月には兵庫県西・北部における集中豪雨のため、身近なところで甚大な被害がありました。特に佐用町においては、人的被害も多大なものでした。これらはまた皆さんの記憶に新しいものと思います。

辻川区では、これら地震・風水の災害を教訓として、安全で安心な防災・減災社会の実現に向けて努力をしていかねばなりません。そのためにも地域の防災力を高めていくことが大切であるとの考えから、辻川区防災計画の作成に取り組んでいます。

協議委員会は今

4月～6月の定例協議委員会での報告や検討した内容を一部紹介します。

① 自主防災組織づくり・規約作成計画、辻川区独自の防災・コミュニケーションマップ作成計画

② 辻川界隈展・民俗学のタへの内容検討。区内から作品公募
→10名から作品提供

③ 辻川山管理体制と内容

④ 辻川山旧バレーコート跡地整備 → 治水対策を早急に

⑤ 敬老の日の催事内容検討

・祝賀会事業委託金支給対象年齢は、平成22年度は73歳以上

・文殊荘は今年も申し込まない。

⑥ 鈴の森神社玉垣破損状況調査

⑦ 屋台倉庫周辺改修を早急に
→ 間口を広げ金網を上げた状態で出入りできるように
まちづくり推進事業

⑧ まちづくり推進事業
→ 支給補助金の有効活用案検討

⑨ 町行政からの依頼事項
・福崎町女性委員会委員推薦
→ 女性部代表に(任期一年)

・人権教育・青少年健全育成研修会 + 行政懇談会は11月28日(日) 19時～ 実施決定

・国勢調査員として辻川区から、小谷喜多男さん(隣保)と松岡博子さん(五隣保)を推薦。尚、調査は5年毎にあり10月実施予定。

新役員紹介「代表のみ」

★老人会会長(4月改選)

第1名、木村正一(留任)

第2名、東 益巳

第3名、大杉忠司

当面の予定

8/1日(日) クリーン作戦

8/1日(日)～8日(日) 辻川界隈展

文芸作品展示・隣保七夕飾り他

8/7(土) 民俗学のタへ

午後5:00～ 夜店(会団体予定)

6:30 開会 6:40 吹奏楽演奏

6:55 キッズダンス&ゆうゆうバンド

7:25 大道芸(じエロ)

7:45 韓国伝統芸能

8:00 猿回し(小猿)

8:20 秋田大黒舞

8:35 猿回し(大猿)

8:55 餅つきばやし

9:10 辻川鬼太鼓(餅まき)

9:35 閉会「担当(金井・鈴木)」

8月中旬 自治会対抗親善ソフトボール大会

9月 各種団体・隣保長会議

祭礼行事のお知らせ

◇7月11日(日) 夏えびす

10時に神主様お祓は(はらひ)一戸あたりの費銭さいせ(せい)2000円を4日までお願いいたします。

◇7月18日(日) 夏まつり

10時に神主様お祓は(はらひ)皆様お誘い合わせの上、多数お詣りください。「10隣保 佐伯

事業報告

◆4月3日(土)

新各種団体・隣保長会議

① 新年度各種団体役員紹介

② 当面の行事予定確認

③ 第24回運動会説明

④ 公民館使用規則改定 等

◆4月24日(土)

「民俗 辻広場まつり」(福崎町・福崎町教育委員会主催)が第4回にしてはじめて土曜日開催となったが、晴天にも恵まれ例年にも増しての賑わいになった。辻川区は今年も、10隣保



の岡本さん→の全面協力による景気づけの「ボン菓子屋」と「角屋」さんの「コーヒー屋」そして商工部の「カキ氷屋」で出店参加。ボン菓子は3kg袋を完売。1時間延長で3時までになったこともあり楽しいイベントもさらに増えた。なお当日、協議委員で登記所跡の倉庫に新たに据え付けた棚に備品資材を納めた。
◆4月29日(昭和の日) 第24回運動会
隔年開催の辻川区最大のイベ

ント。約470名の区民が一堂に会し、辻川山の新緑の中、『笑顔あふれる健康ふれあい大会』をキヤッチアップに、三十六年目の運動会を楽しんだ。



優勝の10隣保 (69点) は平均年齢と勢いが違った。体育委員はじめご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

準優勝 7隣保 (61点)
第3位 17隣保 (53点)



玉入れ



ビンゴゲーム

◆5月29日(土) 地域自主防災研修会

住民生活課の松岡課長他のお出前講座「区民を守る防災体制の充実」を受け、辻川区としての防災計画(防災コミュニケーションマップ・自主防災組織・規約作成等)について参加者42名が意見交換。1隣保の小谷さんから

「災害発生時には隣保単位のものなかりが重要」...大切な視点が確認された。まずは住民参加のまち歩き調査から。

5月の24時間雨量更新
福崎町(アガス)では 22 日午後 10 時~24 日午後 4 時までの雨量が 243mm に達した。特に 24 日早朝には 1 時間雨量 41.5mm を記録し、床下浸水が 25 棟に上った(5/25 神戸新聞等)。ちなみに、福崎町防災マップの氾濫想定は、市川では 1 日総雨量を 210mm、雲津川では 1 時間総雨量を 74.2mm としている。

鈴の森神社の玉垣にみる昔の辻川の賑わい

3 横光利一の父 顕利と辻川

鈴の森神社本殿西の高台にある恵比須(恵美酒)神社の西側に「伏見町増田組辻川出張所」と「増田組出張所主任 横光顕利」の玉垣がある。



小説家・俳人である横光利一(よこみつりいち、本名としかず)の父、顕利(通称、本名は梅次郎)は土木工事の請負(鉄道敷

◆5月30日(日) 溝普請

予定されていた23日が雨天で1週間延期。大雨で洗い流された後の溝は比較的作業がしやすかった。最近の水害は小河川や側溝の氾濫から。泥上げ作業がその水位を下げる効果があることに期待し、気合が入った。

田原校区子供会球技大会(6/20)

▽ソフトボール(男子)
1回戦 0-3 対吉田
2回戦 ● 1-3 対大門
吉田とは引き分けるも じゃんけんで2回戦へ
▽バレーボール(女子)
1回戦 0-2 対大門
2回戦 ● 0-2 対井口・北野

一歩及ばず残念。男女ともよく頑張りました。感謝



設に従事する測量技師)を生業としていたので、利一はその仕事先の福島県で、1888年に生まれました。その後、利一は父の仕事の關係で千葉県佐倉など各地を転々とする。

利一は多感な少年期の大半は三重県伊賀で過ごし、1904年、父が朝鮮に渡ったのを機に母とぎく姉しすとともに母の実家のある三重県東栢植村(現伊賀

市栢植)に移り、栢植で小学校時代の大半を過ごした。



横光 利一

1910年、三重県第三中学校(現三重県立上野高等学校)入学。当初は母と姉と共に上野に移り住んで暮らしていた(1911年四月には一家で上野に住む)が、1913(大正二年)一月から一人下宿生活を始めている。どうやらこの下宿開始時が利一の父、顕利が辻川に赴任した時のようだ。

八隣保の松岡秀隆さんによると、「利一十六歳の頃の日記の、大正二年一月五日の記述に『今日は我が父が兵庫の方へ行かれたり』とあり、その直後の十六日に母が顕利の許へ移って行った」そうだ。姉も同道したかは不明なるも、「利一が辻川に住んだという事実はおかげない」とのこと。三重県上野で下宿生活を続けたと考えるのが至極当然か。その後、利一は1916年、早稲田大学高等予科文科に入学する。

※京都市伏見区には今も創業明治二五年の増田組がある。横光顕利のことを問い合わせたが梨の礫(うぶ)であった。残念

※1888(明治三一年)三月一七日福島県北会津郡東山村(今の東山温泉)で、父梅次郎、母(ぎく)の長男として生まれる。菊池寛に師事し、1923年『日輪』で地位を確立。翌年川端康成らと『文芸時代』を創刊し、新感覚派の中心として活躍した。晩年は東洋的精神主義に傾斜し、「近代の超克」を構想した。代表作に『機械』『紋章』『旅愁』などがある。1947(昭和二十二年)二月三〇日没。ノーベル賞作家の川端をして、弔辞に「君の名に傍(そ)えて僕の名の呼ばれる習わしも、かえりみればすでに二十五年を越えた。・・・その年月、君は常に僕の心の無二の友人であったばかりでなく、菊池さんと共に僕の二人の恩人であった。恩人としての顔を君は見せたためしは無かったが、喜びにつけ悲しみにつけ、君の徳が僕を(うるお)すのをひそかに僕は感じた。・・・」と言わしめた。

編集後記

辻川防災マップづくり...昨年8月の県西・北部集中豪雨災害をはじめとする最近の「ゲリラ豪雨」に西日本の亜熱帯化を懸念する声も。まずは地域の現状を知るからですね。[田崎]